

“核共有”は容認されるものではない 中川市長が私の一般質問で表明

私は24日、ロシアのウクライナ侵略と市の平和政策、豪雪対策などで一般質問をしました。

まず、プーチン大統領の核兵器使用示唆発言を契機に安倍元総理や日本維新の会などがアメリカと共に核兵器を共有すべきだという暴論を展開していることについて市長の考えをたずねました。

これに中川幹太市長は、「あらゆる核兵器の廃絶を願う非核平和友好都市を宣言した自治体の長として、“核共有”は容認されるものではない」と答弁しました。

次いで私は、市内中学生の広島平和記念式典派遣については、式典に参加

できない事態となっても、広島へ派遣し、原爆資料館や原爆ドームを訪れ、被爆者の声を聴くことをしたらどうかと質問しました。

この私の提案に、市長は、「派遣事業の実施方法等の見直しに関しては、教育委員会、学校関係者との協議も含め、検討してまいりたい」と答えました。今後の動きに注目です。

豪雪対策で取り上げたのは、豪雪に対する市長の基本認識、国の豪雪時の災害救助法の適用をめぐる後退姿勢についてです。

まず、豪雪について、1981年2月の「豪雪それ自体が災害だ」（原健三郎国土庁長官）という政府見解がいま崩されようとしているなかで、市長の考えを訊きました。

市長は、昨年、今年の大雪を経験するなかで、「改めて豪雪は災害であることの認識を深めた」とのべました。ぜひこの立場で頑張ってほしいと思います。

また、私は、災害救助法適用下にあつて、政府が「応急救助として除雪が必要な住家（障害物の除去）」の対象をせよと、「人命にかかわるかどうかの証明を求め」る事態となっていること、新潟県内では昨年の5900件の申請のうち、900件がまだ決まってい

ない」ことを明らかにし、市の見解を求めました。

笠原福祉部長は「上越市でも数百件がまだ決まっていない」と答え、中川市長は、「私も、今回の国の判断対応については、非常に憤りを感じている。県と県議会、そして国会議員にも協力してもらい、全力で対応にあたりたい」と答えました。

(一部地域は既報)

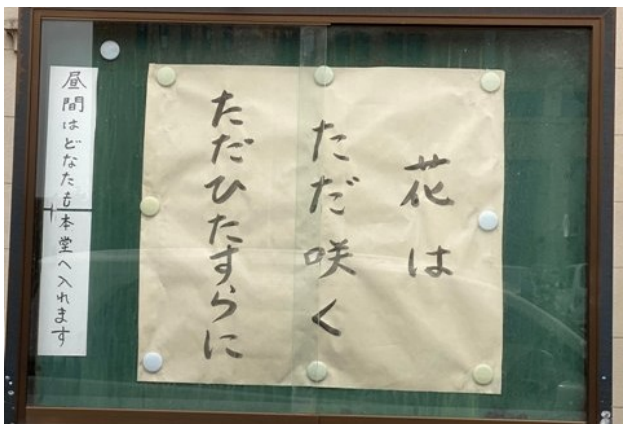
一般会計当初予算など 4議案に反対

日本共産党議員団は、今定例会に提案された53議案のうち、新年度一般会計予算、新年度国民健康保険特別会計予算、新年度介護保険特別会計予算、新年度後期高齢者医療特別会計予算の4議案に反対しました。あとは全部賛成です。

日本共産党議員団を代表して討論に立った平良木議員は、まず、「今議会に提案された中川新市長の新年度予算は、住宅リフォーム補助の上限額引き上げなど市民の願いに応える施策が随所に取り上げられ、これまでになく暮らしを守る予算編成になっている」「こうした施策はその一つ一つがこれまで多くの市民が要望してきたものであり、そうした市民の声を真摯に受け止め、実現に向けて予算計上した市政は、基本的に大いに評価する」とのべました。



【ミツマタ】(再掲) シンチョウゲ科の落葉低木。漢字で「三桠」と書きます。一年枝の樹皮は、紙は紙でも和紙やお札の原料となるそうです。花期は3月～4月。花は黄色で、球状に集まり、甘い香りを漂わせます。花言葉は「強靱」「肉親の絆」「永遠の愛」です。写真は29日、吉川区代石で撮影。



柿崎区の浄善寺の掲示板。花はただ咲く ただひたすらに。この季節ならではの言葉と読みました。サクラも咲きはじめてましたね。

その上で、「ただ、いくつかであつても改善の余地がある以上、手放して賛成することは、市民に対する責任を果たすことになりません」とのべました。

そして、①財政調整基金の大幅取り崩しによって、仕事を失ったり収入が大きく減少したりしている市民のみならずへの追加支援が必要だったこと、②公共施設を次々に廃止、譲渡する悪い意味での行政改革の鉅が相変わらず振るわれていること、③学校給食の民間事業者への委託が続いていることなどを問題視し、反対理由としました。

4議案は、日本共産党議員団以外の賛成(一般会計当初予算は宮越議員が棄権)で可決成立しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2055 2022.4.3
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七〇二回 九八歳前後に

母は一九二四年（大正一三年）三月二七日生まれ。ここまで来ますと、「九八歳まで頑張ろう」といったらぶんに、区切りとなる誕生日が大きな目標となります。

こういったことは当の本人はあまり気にしてなくて、家族などまわりの人間の方が意識しています。一昨年、母が三度も緊急入院したことから、特にそういう思いは強くなりました。

その後、有り難いことに、母は定期的に通院しているものの、入院することはなく、デイサービスやショートステイを利用しながら自宅で穏やかに過ごしています。

私は日中、家にいないことが多く、母の介護の手伝いは夜、一緒に寝るときだけです。でも、母がよく眠れない時など、少しは役に立っているのかなと思っています。

三月二二日、午前二時七分でした。電気アンカを抱いて寝ている母が私に声をかけました。

「とちや、さびいすけ、アンカ、背中につけるが、もう一つ買ってきつてね」

「……」

「おれ、死ぬがねかな」

「まだ、早いよ」

「ふふふ。おれ、死ぬがすけ、（入れ歯の）歯、いんておいた方がいいがねかな。

おい、とちや、いねがが」

「いるよ。寝ない」

加齢に伴い、体から熱を発散する力が弱くなっていくのでしょいか。春になって、だんだん暖かくなってきたというのに、母は寒がるが多くなりました。

三月二四日、午前〇時一五分。パジャマに着替えている私を見つけた母は、ベッドで上半身を少しだけ起こし、声をかけてきました。

「とちや、起きるがが」

「なして、これから寝るがだよ」

「そだごとな」

「……」

「デイサービスでこつとおあるがで、びっくりしとお」

「そりや、いかったね」

「ぼた餅に、きな粉に、黒ゴマに、アンコと一〇も出たがど。サラダも出たし。あんがこつとお出してあうがだかどうだか」

昔から料理が好きだった母は、介護施設で出していたく料理にも強い関心を持っているのです。

さて、九八歳の誕生日の祝いですが、今年はずいぶんシヨートステイの日と重なりましたので、翌二八日の夜に家族みんなが集まってお祝いの会を行いました。

まずは、母が手を合わせて言った、「いただきます」を合図にみんながケーキを食べました。

次いで母の大好きな寿司とサラダをコタツのテーブルの上に並べると、母はそれらの料理を見て、「正月よりのこつとおある」「いままでで一番のこつとおど」を繰り返しました。

この日はみんなに注目されながら食べたせいでしょいか、母の食欲は旺盛でした。

いつもなら一切れ食べるのがよつこの巻き寿司はふた切れも食べました。それだけではありません。「その黒いがない」と他の寿司を欲しがったり、小さなフオークでサラダにまで手を伸ばし始めました。さらに、残った稲荷寿司を片付け始めると、「それ、食ってねかったな」と言って、食べ始めたのです。

この日、母は、大湊区に住む弟からもテレビ電話で誕生日を祝ってもらいました。耳が遠い母は、何を言われたかはよく分からず、「おまん、怪我しななや」とだけ言っていました。

母の次の目標は来年の誕生日です。今度は九九歳です。満百歳の一歩手前まで生き板山の伯母の背中が見えてきました。

NO WARの願いを込めて熱唱

直江津のライオン像のある館で27日に行われた「寄り道ライブ」の先日、NHKのど自慢チャンピオン大集合に出演した川合徹人さんがさだまさしの「フレディもしくは…」「防人の詩」などを熱唱しました。

スピーチでは、「ひとり七くなっただけも悲しいのに、数千人、数万人も七くなるなんて……、いつときも早く平和を」と訴えました。



春間近の風景、暖かく

27日、大島画廊で開催中の大口満さんの個展を観てきました。

大口さんは、いつも身近な風景をあたたかく描いておられます。今回はペンを使った線が美しい絵、春の雪の暖かさが伝わってくる薄いピンクの雪などに惹きつけられました。写真は大口さんのツーショットです。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月23日(水)	3月30日(水)
上越南消防署	0.057	0.050
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.043	0.047
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.050	0.040
名立分遣所	0.070	0.053
高士分遣所	0.047	0.040